

2009年12月23日(水) 県民福井

北陸グリーンエネルギー研究会

「地域における容器包装事業は、環境省のめば」と期待していた。	アリミ系廃棄物の回収事業で、地域で
を知りこすから早く進歩紙パックが流れること	人間は「子どもから大人まで、アリミ社引き
された。同会の樋畠夫副会長は「子どもから大人まで、アリミ社引き	紙パックが流れること
た紙パックなどの回収内側にアリミを張つ	をPRするため開かれた。
たちを楽しめさせた。	内側には「アリミ」が書かれていた。
浮かび上がる歩行者一ヶ所	所は現在、坂井市の「アリミ」が書かれていた。
として出現。約三時間	西側で始めた「アリミ」が突如現れる。
（日本洋商）	県内の回収場所は現在、坂井市の一ヶ所。



北陸三県の企業や行政を使って、発光ダイオード(LED)電球を生産させ、水素を発生させ、水素と酸素でエネルギーを生かすための装置を浮かべて、北陸リサーチスクールが開催された。研究会は十一日、福井市のJR福井駅東口で燃料電池と通常同会のメモリー約十五人が参加。奇麗な夕暮れの駅東口には磨葉反射式のアルカリ電池を、総一・一以横三装から回収したアルミニウムを水酸化ナトリウムは、総一・一以横三

電飾でCR啓発

卷之三

廢棄物博用

飲料パックで恐竜光る

グリーンエネ研回収をPR

JR福井駅

産官学と市民団体でつくる「北陸グリーンエネルギー研究会」は22日、アルミ付き紙パックを回収し、アルミから発生させた水素エネルギーを燃

料電池に使う事業をPRするため、JR福井駅東口で発光ダイオード(LED)のイルミネーションを点灯させた。

県内では県民生協のハーツはるえ店(坂井市)で21日から、アルミ付き紙パックの回収受け付けを始めた。この事業を周知して回収拠点を増やすことを目的に、デモンストレーションを行った。事業の仕組みは、アルミコーティングされた紙パックをスーパー・マーケットなどで回収し、アルミと紙を専用の炉で分離。水酸化ナトリウムとアルカリを3時間点灯させることで水素を

発生させ、燃料電池に使う。200ミリリットルから約1円のアルミを取り出すことができ、アルミニウムでLED500個を3時間点灯させることができるという。



JR福井駅東口
アルミ付き紙パックを再利用したエネルギーで点灯させたLEDのイルミネーション!! 22日

デモンストレーションは午後4時から3時間、フクイラブトルを描いたボード(縦1・2尺、横3尺)に青色のLED500個を付け、燃料電池入りの専用装置で点灯させた。同研究会副会長の堀照夫福井大副学長は

「飲料パックからもエネルギーができる」と広く知つてもい、回収拠点が増える機会になれば」と話していた。

同研究会は北陸3県の企業や大学、自治体、市民グループなど約50団体が参加し、今年5月に発足した。この日は金沢、富山両市でもデモンストレーションを行った。